

ユースと共に拓く大学女性協会の未来

## 「ユースをとりこむ工夫と実践」

京都支部長 久保宜子

本日は「ユースをとりこむ工夫と実践」というタイトルをいただいておりますが、皆様の支部でも、それぞれいろいろな工夫をされて活動をされていらっしゃると思いますので、京都支部の取り組みがそれほど皆様にお役に立つとは思いませんが、ひとつの支部の取り組みと思って聞いていただければ幸いです。

京都支部について少しご紹介させていただきます。京都支部は1947年に誕生いたしました。つまり大学女性協会が創設された翌年ということで、もう77年間の歴史を歩んできたこととなります。

京都支部の大きな誇りは創立当時の会員の方がお一人、今もお元気で在籍していらっしゃることで、会員数は現在35名です。100歳以上が1名、90歳以上が5名、80歳代が13名、70歳代が5名、60歳代が4名、50歳代が5名、40歳代が2名ということで、各年代にわたっていますが、やはり確率的に高齢化の状態です。

以前、全国の大学女性協会の会員数を1000名にとの目標を掲げて取り組んでいた頃、中村久瑠美会長のころですが、支部でも会員増強に力を入れてワークショップを試みたりいたしました。そんな時に偶然にも大学女性協会の活動に共鳴してくださった私の友人が一人入会され、その後、数名のお友達にお声掛けをしてくださり入会されたという経緯がございます。

皆さん50代で若く、私的にも社会的な活動をバリバリとされていらっしゃる方ばかりです。お忙しいのですが、大学女性協会の活動への理解も深く、直ぐに役員会の一員にもなっただき頑張ってくださいしています。早く会の組織などをわかっていただき、支部の皆様とお近づきになるためには、役員になっていただくことが最も近道だと思います。

50代の若い方が入会され、役員にもなって運営にもかかわってくださったので、過去にこだわらない新しい感覚での意見を出され、今の時代に沿った運営の在り方など、おかげさまで効率的になったところがたくさんあります。

何とかもっと若い会員を増やしたいといつも役員会のたびにそのお話が出て、どうしたらよいのかと議論を重ねてきました。

やっぱり若い方にも魅力ある活動を提供しなくてはと取り組んだ活動が、コロナ禍前になりますが、一番若い会員お二人に無理を承知で例会の企画をお願いしました。お二人とも守田科学奨励賞を受賞され、京都支部に入会された方々です。

研究職でお忙しく普段は例会には出ていただけないお二人でしたが、お引き受けいただき

研究室のお仲間三人を誘って「大学女性協会の今後を考える」というテーマで意見交換会を企画していただき、当日の進行役など例会を仕切ってくださいました。

この日は実際に若手の研究者の方々の実際の苦悩や葛藤など、そしてそれをどう自分自身で解決できる窓口を見つけるか、など率直なご意見を聞くことが出来ました。

お話の中では、やはり若手研究者の間には人生と研究についての葛藤を処理しきれずに精神的に追い詰められて、孤立してしまうケースがよくあるとのこと、だからこそ女性研究者の世代間のコミュニケーションを図り、情報交換をして女性の潜在的な能力と可能性を引きだして、キャリアとライフの質的向上を図ることが大事ということでした。

そして大学女性協会の方々は、その時代においてパイオニア的存在であり、たくさんの経験を積んできた世代であり、国際的なネットワークをもとにしたグローバルな活動をしているので、そこで若手研究者と大学女性協会がつながりを作って、いろいろな課題を解決できるように、世代間の積み残してきた課題がないか、情報交換をして共有することが、次世代のためにも大切だとのことでした。

又、若い世代を取り込むための具体案などアイデアも提供してくださいました。その中でもやはりネットワークの窓口になってほしいとか、女性研究者支援の拠点の構築を希望しますとか・・・いろいろご意見がありました。

このように若手が中心になって開催した例会は、雰囲気も明るく内容も未来に向けた希望が感じられてとてもよかったですと思います。

支部としてはこのような貴重な意見を得ながらも、なかなか次の一歩が歩みだせないまま、コロナ禍を迎え活動もできない状況でした。が、岩村会長さまを中心にこの2年間に大学女性協会では「ユース」をキーワードに、皆様もご存じのようにいろいろな活動をされてきました。

京都支部からも三人の若手会員がいろいろお手伝いをさせていただき、三人ともとても忙しい中を頑張ってくださいています。2023年2月には、大学女性協会ワークショップが「世代・文化を超えてジェンダーを再考する」をテーマに開催されました。香港、ウズベキスタン、東京、京都をオンラインで結んでのワークショップでは、京都会場においては三人が手分けをしてテキパキと活動する姿に、京都支部としては何か誇らしくも思いました。

支部長としては三人にいろいろ迷惑や負担をかけていないかな、と心配したところもありましたが、実際に活動している姿を拝見してとても生き生きと活動をしていただき、若さのすばらしさや頼もしさをつくづく実感いたしました。

先ほど宮下様からご報告のあった「次世代につなぐ会」も委員会として活動を始めようとしていますし、これからの若手の活躍がとても楽しみです。

また、昨年度に調査・研究委員会で取り組まれた「ユースの生きづらさ」のアンケート、インタビューにも京都支部も協力をさせていただきました。その時、実際にユースの方とインタビューで接していろいろお話を聞かせていただいても、やはり若者は孤独にならない

ように、又広い視野を持つためにも、いろいろな分野の人とのつながりを求めていることが分かりました。

そこで京都支部では長年のゆめであった事です、京都支部と関わりのあったユースの方たちのネットワークを作ることを考えました。

京都は大学の町ということもあり、毎年国内奨学生に応募する学生さんの人数がとても多いです。毎年8名くらい、昨年は13名でしたが、この学生さんたちを繋いでネットワークが生まれたらと思いました。また博士をとられ卒業後に他地区から京都へ来られて、大学や研究機関などで仕事をされておられる方にもお声掛けをしたいと思います。

その窓口として動いてくださっているのは、若手会員の三名の方です。先日、役員会にも出席していただき、この若手研究者の皆様をつなぐネットワーク構築のための話し合いをしましたが、とても前向きに賛同してくださり、率先して計画を練ってくださっています。

早速、6月9日に支部例会の日程も決定して、ハイブリッド形式で第1回の「つながりの輪」を開催することになりました。

若手の三人が忙しい中、工夫を凝らして有意義な会になるようにと取り組んでいます。研究分野を超えた、世代を超えたどんな素敵なつながりの輪ができるのでしょうか。とても楽しみにしています。そしてこのつながりの輪の中から将来、大学女性協会に入会される方が出てくださることを期待しています。